

第2章 Murgul 地区

本地区は Hopa 地域の東部に位置し、Murgul 鉍床群を取り囲む、ココレット (Kokolet) 区域、Ardiç 区域及びカバジャ (Kabaca) 区域から構成される。本地区では地質調査を実施した。

2-1 地質調査

2-1-1 地質 (図Ⅱ-2-1～図Ⅱ-2-3)

下位より下部白亜系の Kabaca 層及び上部白亜系の Murgul 層、Ardiç 層、キュレ (Küre) 層が分布し、安山岩や粗粒玄武岩が貫入する。

Kabaca 層 (Kv) は玄武岩、安山岩等の塩基性火山岩類からなり、黄鉄鉍が鉍染し、随所に石英の細脈が認められる。Murgul 層は酸性火山岩類からなり、火山性塊状硫化物鉍化作用を受ける下部層と、上部層に区分される。下部層は石英安山岩溶岩及び同質火山碎屑岩類 (Mdcl) からなり、Tunca 地区とは異なり、石英の斑晶を多く含む。本岩類は調査地区に広く分布し、鉍化変質を受け、黄鉄鉍が鉍染する。上部層は軽石凝灰岩 (Mdlit) 及び細粒凝灰岩 (Mdu) 等からなり、下部層を被覆し、スメクタイト変質等をする。Ardiç 層は玄武岩 (Abs) 等の塩基性火山活動により特徴づけられ、挟在する堆積岩類 (Ams, Atf, Amd) により、数層に区分される。Küre 層は泥岩 (Kmd) やシルト岩等からなり、下位の Ardiç 層とは不整合で接する。

貫入岩はカラテペ (Karatepe) 石英安山岩 (Kd)、花崗岩類 (Gr)、安山岩 (Ad) 及び粗粒玄武岩 (Dol) からなり、Karatepe 石英安山岩 (Kd) は Murgul 鉍床付近に発達し、Murgul 層及び Ardiç 層に貫入する。

本地区には EW 系の構造が発達し、地層の走向や断層系に反映する。LANDSAT の TM 画像には Murgul 川と Çhorh 川が形成する環状構造と、その内側の環状構造が認められる。

2-2-2 鉍化・変質作用

(1) 鉍化作用 (図Ⅱ-2-4、図Ⅱ-2-5)

本地区周辺の火山性塊状硫化物鉍化作用は、Murgul 層下部層を胚胎母岩とし、ダマール (Damar) 鉍床、チャクマッカヤ (Çakmakkaya) 鉍床、チャクバシュ (Çarkbaşı) 鉍床 (以上、Murgul 鉍床)、Kızılkaya 鉍徴地、カラギョル (Karagöl) 鉍徴地、レピシュキュール (Lepüskür) 鉍徴地、上部 Kokolet 鉍徴地等が存在する。これらの鉍徴地は塊状硫化鉍を欠き、硫化物の鉍染等からなる。Çakmakkaya 鉍床は現在、黒海銅公社 (KBI) が採掘中で、Kızılkaya 鉍徴地 (鉍石分析値 Au:0.12~0.39g/t, Ag:2.60~3.35g/t, Cu:0.02~0.03%) 及び Karagöl 鉍徴地 (Au:<0.01~0.12g/t, Ag:0.06~20.00g/t, Cu:<0.01%) は近年、Dardanel 社により探鉍されている。上部 Kokolet 鉍徴地には、Murgul 上部層最上部に重晶石、ドロマイト及び石英等からなる厚さ 2~5cm の鉍層 (Au:0.01g/t, Ag:0.15g/t,

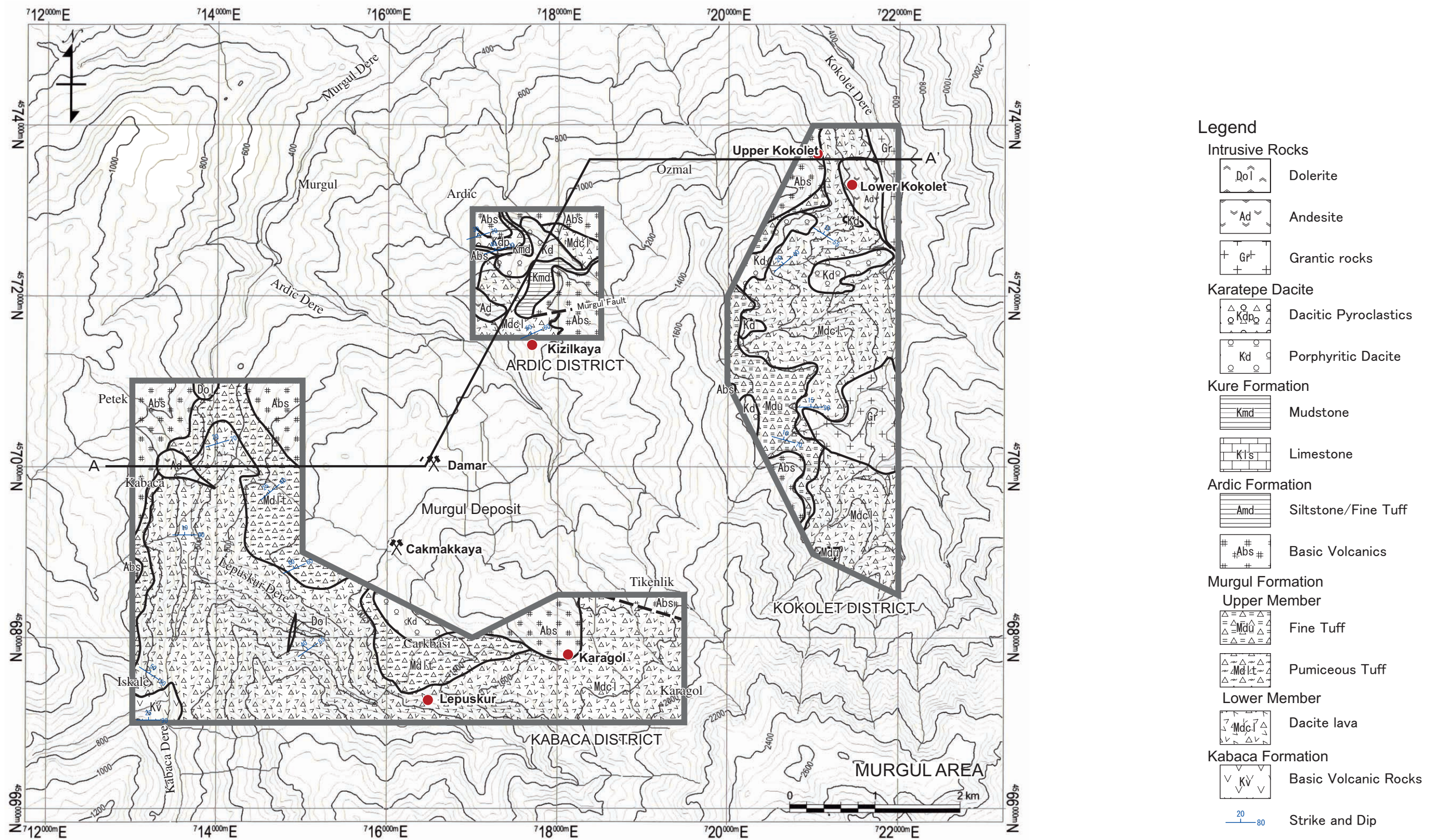


图 II-2-1 MURGUL地区地质平面图

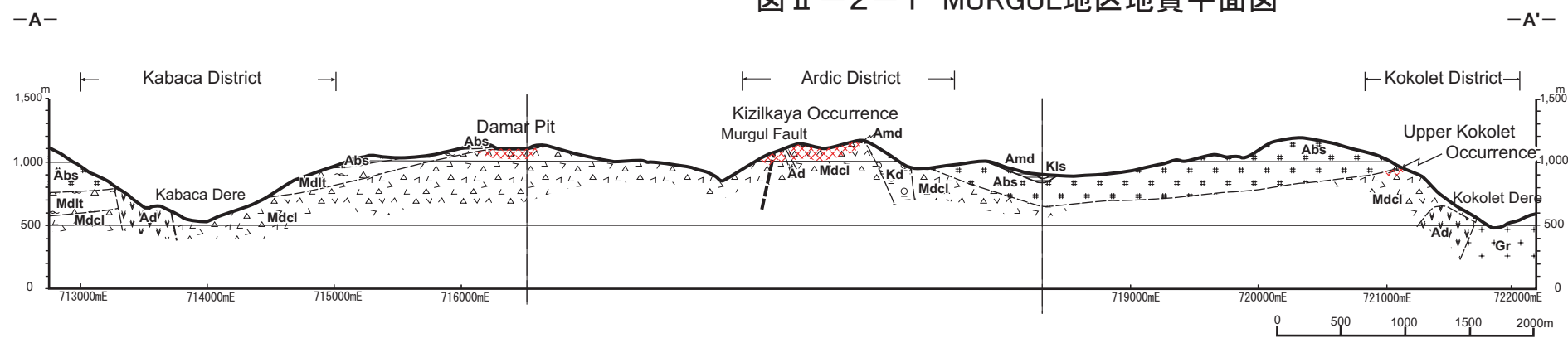


图 II-2-2 MURGUL地区地质断面图

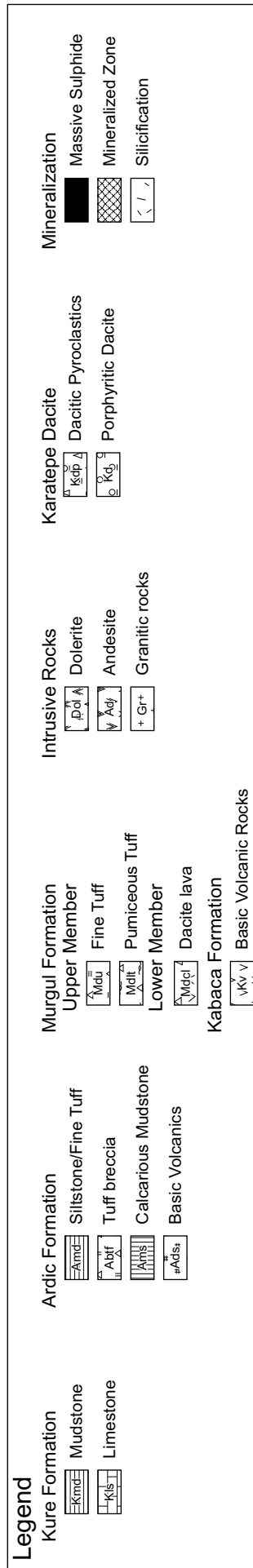
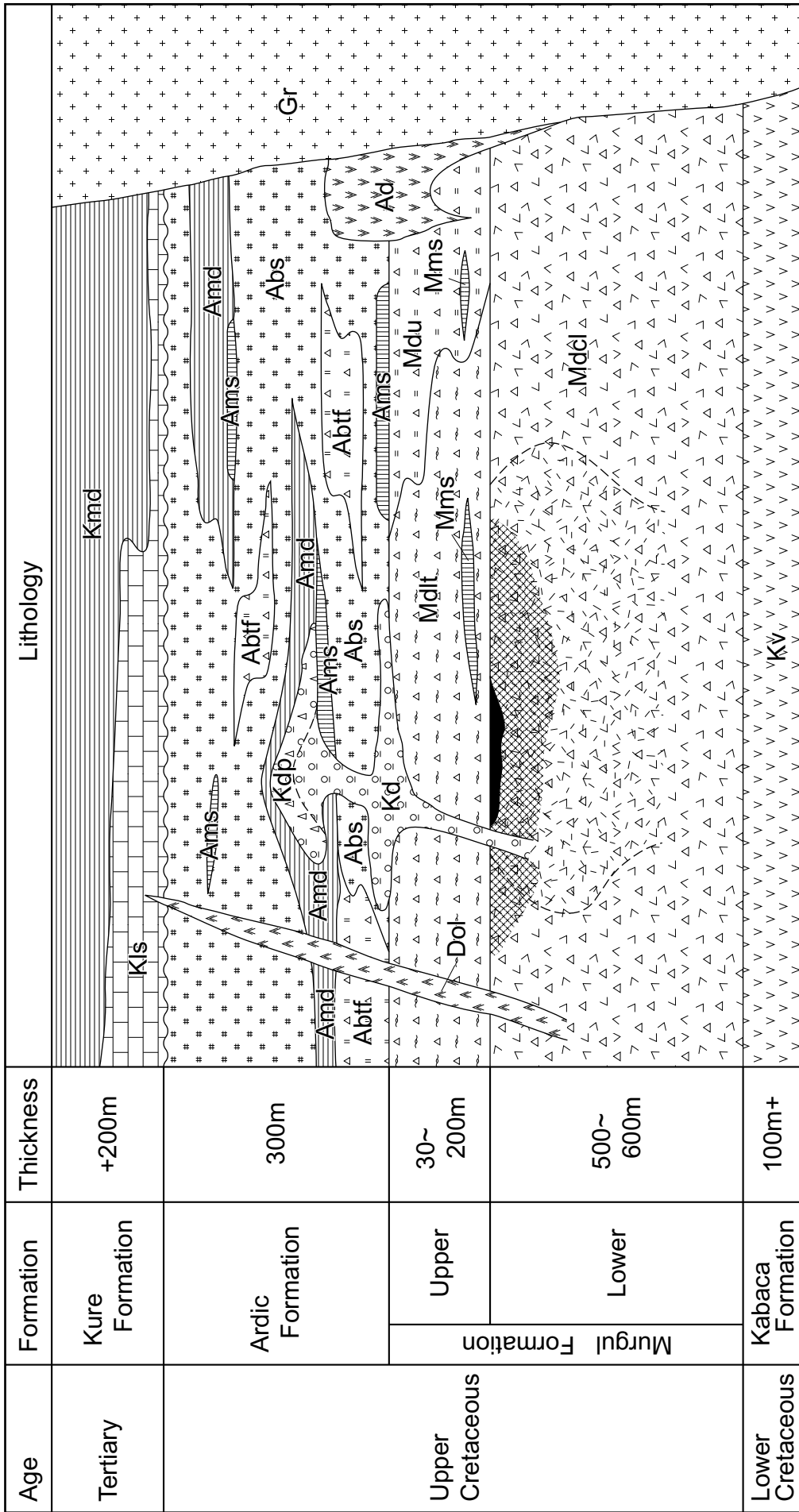


图 II-2-3 MURGUL地区地質模式層序图

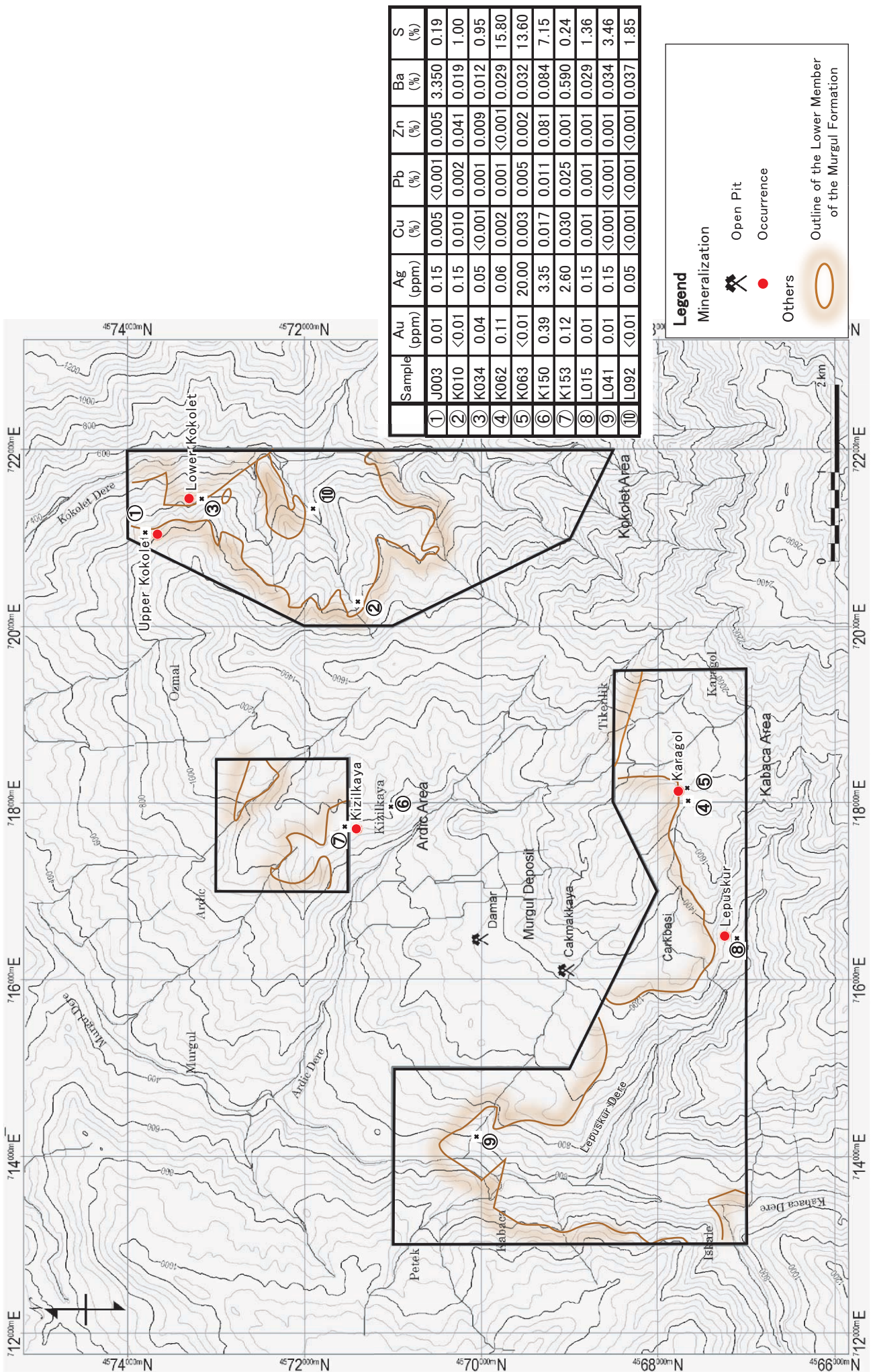
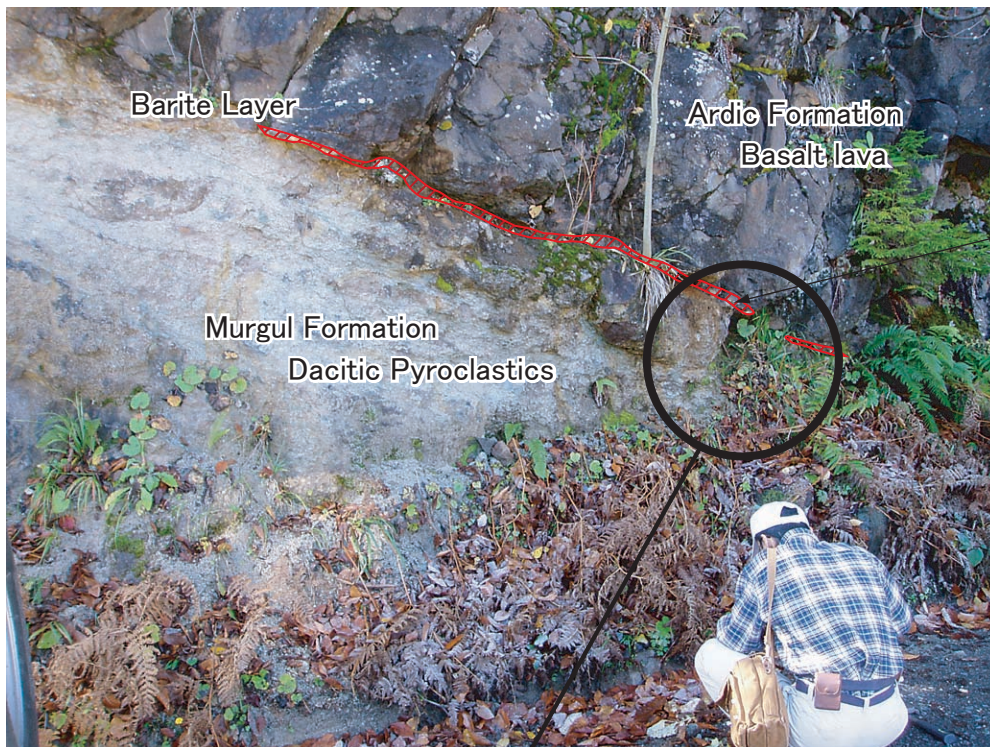
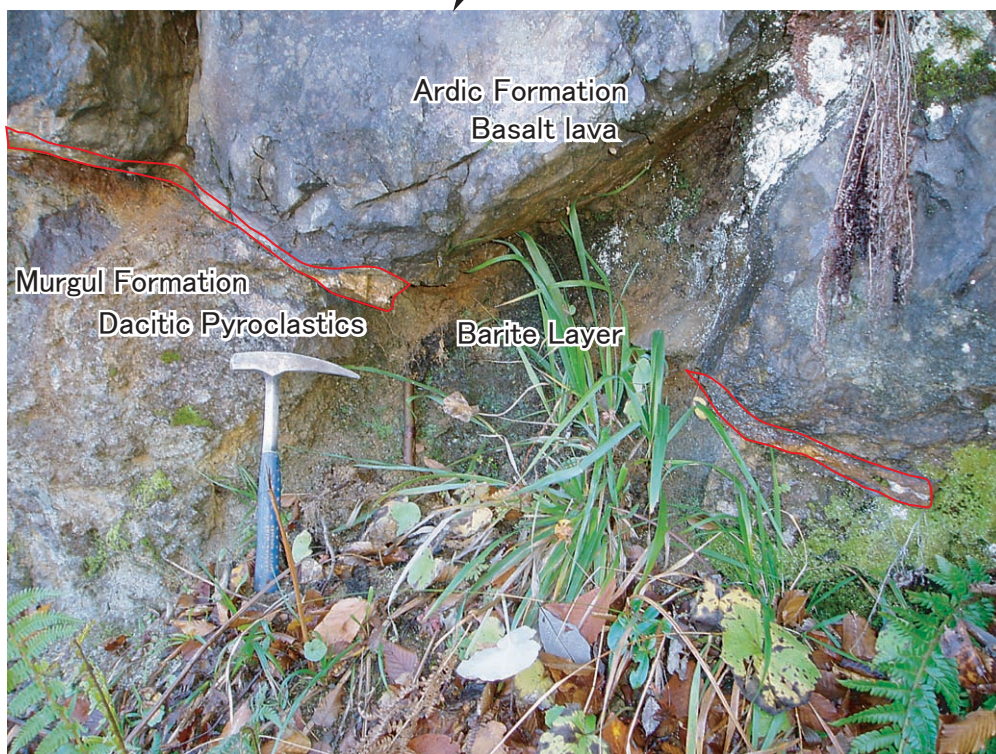


图 II-2-4 MURGUL地区钼矿位置图



boundary
N25° W, 25° W

Enlargment



Barite Layer;
 Width : 2~5cm
 Mineral assemblages : Barite, Dolomite, Calcite, Quartz
 Assay : 0.009g/t Au, 0.15g/t Ag, 0.05% Cu, <0.001% Pb, 0.005% Zn, 3.35% Ba

図Ⅱ—2—5 上部KOKOLET鉱徴地

Ba:3.35%) が存在する。下部 Kokolet 鉱徴地は Murgul 下部層に貫入する安山岩中に存在し、黄鉄鉱が鉱染し、一部に孔雀石等の二次銅鉱が存在する。

火山性塊状硫化物鉱化作用に伴う鉱徴地は NE-SW 方向に分布する。

(2) 変質

(a) 変質鉱物分帯 (図 II-2-6)

火山性塊状硫化物鉱化作用の中心部では、石英-カオリナイト-絹雲母帯が認められ、Çakmakkaya 鉱床を通り Kızılkaya 方面へ、NNE-SSW 方向に連続する。同帯の西側には石英-絹雲母-緑泥石帯があり、東側には石英-絹雲母- (絹雲母/スメクタイト混合層鉱物) 帯が分布する。これらの分帯は NE-SW 方向に連続する。

(b) 変質強度分帯 (図 II-2-7)

強変質強度帯 (90%<AI) は Lepüskür 川流域から、Ardıç 区域と Kokolet 区域間の山塊へ NNE-SSW 方向に連続する。

(3) 地化学調査 (図 II-2-8)

Kızılkaya 鉱徴地には Au,Ag,As,Cu,Pb,Sb,Bi の地化学異常が集中し、Karagöl 鉱徴地には Bi、Kokolet 鉱徴地周辺には Ba、Mn の地化学異常が分布する。